

人文・社会系



「文字情報学」—文字の宝庫、アジアにおける文字文化の快適な利用と享受の実現—

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
バースカララーオ ペーリ

【研究の背景】

地球上で話されている言語の数は約6千といわれています。一方、使用されている文字の種類は言語の数よりもはるかに少なく、その百分の一程度です。これらの文字のほとんどがアジアで使われています。文字の宝庫であるアジアは、グローバリゼーションの壮大な実験場でもあります。アジアには、21世紀のネットワーク環境を前提にした通信コミュニケーションや文字情報資源の蓄積・公開に関するさまざまな問題が集積・集約されていると同時に、これらの問題を解決するための重要な鍵が隠されています。

本プロジェクトでは、グローバリゼーションを、限られた言語や文字に淘汰することではなく、固有の言語や文字文化を世界中の人間が快適に利用・享受できる環境の実現と捉えています。

【研究の成果】

文字を学問対象とする試みが今日まで十分に行われてこなかったことを踏まえ、人文科学と情報科学を融合した切り口から「文字情報学」という新領域の開拓と体系化を目指しました。

具体的には、アジアで使用される漢字、インド系文字、アラビア文字などについて(図1)、文字系統の歴史、表記する言語との関係、文字の政治的・社会的な側面、事実上の標準となりつつある国際文字規格(Unicode)の問題点など多角的な視点から研究成果を積み重ねデータベースとして公開しています。

また、学術的研究と並行して、新しく得た知見をわかりやすく提示する工夫もしました。例えば、同じ系統の文字が地域ごとに分岐し変化していく様子をアニメーションの技法でみせたものもあります(図2)。さらに、文字情報学の実用的な応用として、デジタルデバイドの解消や研究の効率向上を図るために開発したツール類も公開しています(図3)。

【今後の展望】

現在、研究拠点(アジア書字コーパス拠点、通称GICAS)として各種競争的研究費を獲得しながらさらに研究を進展させています。国際文字規格が確立していない文字や規格が不備な文字もまだまだ数多くあります。ユニコード・コンソーシアムのリエゾン・メンバーである日本で唯一の研究機関として、研究成果をもとに積極的に提言し国際的にも貢献していきたいと考えています。

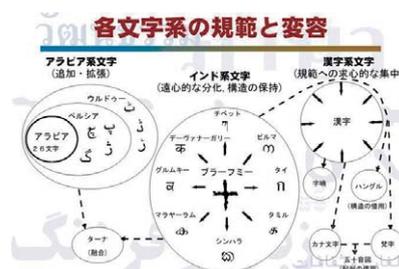


図1 アジアの主な文字の系統



図2 文字の変化をアニメーションで見ると
(<http://www.aa.tufs.ac.jp/i-moji/>)



図3 文字を入力する汎用ツール

【交付した科研費】

平成13~17年度 特別推進研究(COE)「アジア書字コーパスに基づく文字情報学の創成」